

# リスク 副作用等についての記載

## <プラセンタ注射>

プラセンタとは、ヒトの胎盤から抽出されたエキスを原料とする生物製剤になります。

感染症が伝播したとの報告は現在までに国内 海外ともにありません。

日本赤十字の通達により、プラセンタを打った方は献血ができなくなりました。

これは、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）等の伝播のリスクを完全には否定できません。

そのため、プラセンタ注射後は献血ができません。

しかし、製品工程には、原料提供者のウイルス等感染症のスクリーニング検査や、滅菌処理、ウイルス不活化処理など万全な安全対策がされております。

現在、B型肝炎 C型肝炎 エイズ、vCJDなど感染症の報告はありません。

疲労回復 美肌効果等、すぐに感じる方もいますが、個人差が大きく期間はお伝えしづらいですが、初めは週1ペースで1～2か月程度で実感される方が多いです。

3か月続けてみて効果が見られない場合は、一旦中止してみてください

## <ビオチン注射>

針を刺した箇所が赤くなる場合がありますが、ほとんどの方が当日中に気にならなくなります。また、内出血となるケースがありますが時間経過とともに気にならなくなります。

皮下、筋肉注射時は、組織 神経などへの影響を避けるため、繰り返し注射される場合は、交互左右に注射する方が望ましいです。

## <高濃度ビタミンC>

- ・血管痛(浸透圧が高くなる為におこる場合もあります。当院では、速度を調整、マグネシウムの付加、温罨法などで軽減できます。
- ・利尿作用があり、のどが渇くことがあります。  
点滴中はミネラルウォーターやお茶などこまめに水分補給を行っていただきます
- ・G6PD欠損症という、赤血球膜の遺伝子酵素異常のある方は赤血球が壊れてしまう溶血性貧血を起こすため、この治療を受けることができません。
- ・見かけ上の高血糖を起こす  
ビタミンCとブドウ糖の化学構造が極めてよく似ているために起こる現象です。  
自宅で簡易血糖測定器で使用している方は、ビタミンC点滴12時間後は血糖測定を控えてください。

## <にんにく注射>

にんにく注射のビタミンB類は水溶性ですので、摂取しすぎたり体内に蓄積することがありません。逆にいうと、体外に排泄されやすいので、定期的に十分補充しておく必要があります。

ただし、どんな薬剤でも副作用が起こる可能性を完全に否定することはできません。

にんにく注射で起こりえる副作用は、アレルギー反応、下痢、頭痛、湿疹、蕁麻疹などです。

この場合、にんにく注射を今後受けないようにすれば大丈夫です。

また、にんにく注射は注射針を皮膚に刺しますので、注射部位の血管痛、注射部位が一時的に赤くなったり、硬くなったり、内出血がおこる可能性があります。

## 治療を受ける上でのお断り

- ・ビタミンC点滴療法は健康保険医療の対象外であり、臨床検査、治療に伴う初診料、再診料など自費診療になります。
- ・使用するビタミンC製剤は米国マイラン・インスティテューショナル社Bi製で、多くの治療実績を有しており、また十分に安全性が保障されています。
- ・但し、治療効果には個人差があり効果は確約できるものではないことをご了承ください。